7.　日本看護歴史学会のあゆみ

田中　幸子

日本看護歴史学会／東京慈恵会医科大学医学部看護学科

日本医史学会創立90周年，誠におめでとうございます．

日本看護歴史学会のあゆみについて述べさせていただきます．

日本看護歴史学会は，広く看護の歴史を探究すること，そのための人的，知的交流を図ることを目的として1987年8月に発足した．発足にあたって1987年3月29日の設立準備会には亀山美知子（発起人代表）の他，山本捷子，高橋みや子，山崎雅代，藤村龍子，高田節子，氏家幸子，ライダー島崎玲子，福本　恵，洲脇絢子（敬称略）が集まった．学術集会の開催にあたって，看護技術（医学書院），33巻3号1987年などいくつかの雑誌で学会設立のお知らせが行われた．

当時，筆者は20代前半の学部生でGHQの戦後改革に関心を持っていた．たまたま広げた雑誌に，発起人らの関心分野が掲載されており，ライダー島崎先生がGHQの看護改革を研究していることを知り，学会に行ってみようと思った．それがきっかけでこの学会に入会した．あれから30年が経とうとしている．

現在は，会員数336人（平成28年8月現在）で，以前と比べ30代，40代くらいの若い人が増えている感じがする．これには，急激な看護系大学の増加，マイナーながらも看護歴史を専門とする研究者の増加が影響していると考えている．

学会誌は，1988年3月に第1号が創刊され，年1回のペースで発行されている．初期のころは研究論文の他，看護歴史に関する文献目録，日本看護学会発表題目が掲載され会員の研究推進に力を入れていた．

本学会は，1888年（明治21年）を，東京・京都で教育を受けた看護婦たちが誕生した時点と定めた（1990年6月日本看護歴史学会於）．そして，近代看護婦発祥100年記念事業として，1988年に「看護師100年のあゆみ写真展」を開催している．同年6月～7月に京都（地下鉄御池駅ギャラリー）をはじめ全6か所で写真の展示を行い，延べ10万人以上の方々にご覧いただいたそうである．写真展の実施にあたっては日本看護協会，都道府県看護協会，関係団体の個人の方々の協賛をいただいたと言われており，研究そのものだけでなく，一般の人々に看護を知ってもらう社会的な啓発活動も，手弁当で行っていたということになろう．

当時の状況について，山本先生は，あの頃はとんでもない忙しさでした，と筆者に教えてくださった．改めて筆者は先人の看護歴史に対する深い情熱と行動力とを感じた．さらに，写真展の反響は大きく，会員からの要望に応えるべくアルバムの作成を行い，会員に配布された．また，産婆・保健婦・看護婦誕生に合わせてテレホンカードを作成し販売した．これもまた，携帯電話が主流となった今となっては本学会の歴史に残る貴重なものになっている．30年と歴史は浅い学会ではあるが先人の活動は，“歴史”に残る活動を行ってきたことがわかる．

今後の具体的な課題は，会員の研究活動を推進するために学会誌を充実させること，会員の研究活動を支援することと考える．論文の投稿数は毎年，10件程度で安定しているが，論文の専門性が深く，広くなっている．そのために査読者の確保が難しくなっており，会員外への査読依頼も必要になっている．今後，六史学会の先生方にもご支援をいただきたいと思います．どうぞよろしくお願いします．